

令和 2 年 沖縄県市町村別平均寿命の概況

～ 令和 2 年 市区町村別生命表から ～

令和 5 年 7 月
沖縄県衛生環境研究所

令和2年 沖縄県市町村別平均寿命の概況

本概況では、令和5年5月12日に厚生労働省が公表した「令和2年市区町村別生命表」より、沖縄県内市町村の状況をまとめました。

1 本概況の作成に用いた資料

- (1) 令和2年市区町村別生命表の概況（厚生労働省 HP:2023年5月23日アクセス）
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/ckts20/dl/ckts20-09.pdf>
- (2) (参考)平成27年市区町村別生命表(令和2年と同様の方法で算出)（厚生労働省 HP 2023年5月23日アクセス）
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/ckts20/index.html>
- (3) 令和2年市区町村別生命表（e-Stat: 2023年6月16日アクセス）
(参考)令和2年市区町村別生命表 対象1887市区町村の順位（e-Stat: 2023年6月16日アクセス）

2 本概況の作成方法等について

市区町村別平均寿命は、市区町村単位で死亡の状況を比較するため、平成12年(2000年)以降、5年(国勢調査実施年)ごとに厚生労働省が作成し公表している。令和2年からは、市町村の95歳以上の人口における年齢構成の偏りなどの影響を受けないよう、計算方法を変更しており^{※1}、平成27年市区町村別生命表についても、令和2年と同様の方法により再計算した平均寿命を参考資料として公表した^{※2}。今回、この概況の平成27年から令和2年の「平均寿命の伸び」の計算には、令和2年と同様の方法で再計算された平成27年市区町村別生命表の参考資料を使用した。

また、平均寿命および男女差の県内順位については、e-statより入手した令和2年市区町村別生命表より、小数点第2位以下の数値を比較して順位付けをした。ただし、「平均寿命の伸び(R2-H27)」については、令和2年と同様の方法で再計算された平成27年市町村別平均寿命の参考資料から小数点第1位以下の値が得られなかったため、小数点第1位の値により伸びを計算し、同値の場合は同順位とし、市町村コード順に掲載した。

※1 「令和2年市区町村別生命表における変更について」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/ckts20/dl/ckts20-00.pdf>

※2 (参考)平成27年市区町村別生命表(令和2年と同様の方法で算出)

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/ckts20/index.html>

3 用語等の説明（以下、厚生労働省「令和2年市区町村別生命表の概況」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/ckts20/dl/ckts20-09.pdf> より転載）

(1)生命表とは

生命表は、ある期間における死亡状況が今後変化しないと仮定したときに、各年齢の者が1年以内に死亡する確率や、平均してあと何年生きられるかという期待値などを、死亡率や平均余命などの指標によって表したものである。

これらの指標は、男女別に各年齢の人口と死亡数を基にして計算されており、現実の年齢構成には左右されず、死亡状況のみを表している。したがって、死亡状況を厳密に分析

する上で不可欠なものとなっている。また、0歳の平均余命である「平均寿命」は、全ての年齢の死亡状況を集約したものとなっており、保健福祉水準を総合的に示す指標として広く活用されている。

(2)市区町村別生命表

市区町村別生命表は、死亡状況を市区町村単位で比較するため、国勢調査による日本人人口(確定数)と人口動態統計(確定数)による日本における日本人の死亡数、出生数をもとに、平成 12 年から5年(国勢調査年)ごとに作成し、今回が5回目である。

市区町村別生命表では、人口規模の小さい地域の死亡状況を扱うことから、5歳階級ごと(5歳未満は0歳と1～4歳に分割)の死亡率に対して、小地域の死亡率推定に有力なベイズ推定を用いて死亡率の安定化を図っている。

なお、市区町村別生命表に掲載されている全国値並びに都道府県、指定都市及び東京都区部の値は、市区町村の値との比較の観点から、各市区町村と同様の方法で算出した「参考値」であり、完全生命表及び都道府県別生命表の値とは異なっている。

(3)基礎資料

令和2年市区町村別生命表は、小地域における死亡数の偶然変動の影響を少なくするために、人口動態統計(確定数)による日本における日本人の死亡数(令和元年～3年)及び出生数(平成 30 年～令和3年)、令和2年国勢調査による日本人人口(確定数)を基礎資料としており、令和元年～3年の市区町村別の日本人の死亡状況を表している(なお、簡易生命表及び完全生命表は、人口動態統計における単年の死亡数及び2年分の出生数を基礎資料としている)。

(4)対象市区町村について

この生命表における市区町村(区は特別区及び行政区としている)は、令和3年 12 月 31 日時点のものである。また、その対象は、人口動態統計の観察対象範囲に含まれる同時点における 1896 市区町村のうち、令和2年 10 月1日現在、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故に伴う避難指示区域に指定されていた町村及び集中豪雨による熊本県球磨川水系の被害を受けた村について、住民基本台帳に基づく人口より令和2年国勢調査人口が過少である9町村(福島県双葉郡楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、相馬郡飯舘村及び熊本県球磨郡球磨村)を除く 1887 市区町村としている。

(5)計算方法の変更について

今回から 95 歳以上の定常人口(95 歳の生存者が 95 歳以後死亡に至るまでの間に生存すると期待される年数の和)の計算方法について、ベイズ推定を行う際に用いた広地域の情報を活用する方法に改めることにより、当該市区町村の 95 歳以上の人口における年齢構成の偏りなどによる影響を受けないよう変更している。

詳細はこちら

「令和2年市区町村別生命表における変更について」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/ckts20/dl/ckts20-00.pdf>

令和2年 市町村別平均寿命

令和2年の沖縄県の平均寿命(0歳の平均余命)を市町村別にみると、男では西原町が82.1年で最も長く、次いで南風原町(81.4年)、北中城村(81.3年)となっている。女では、北中城村と豊見城村が88.7年で最も長く、次いで西原町・今帰仁村・南風原町(88.5年)となっている。

一方、男では、宮古島市が79.4年(全国下位47位)で最も短く、次いで金武町(79.9年)となっており、女では、うるま市の87.3年が最も短い。

平均寿命の最も長い市町村と最も短い市町村との差は、男で2.7年(西原町82.1年-宮古島市79.4年)、女で1.4年(北中城・豊見城市88.7年-うるま市87.3年)となっている。

全国の平均寿命を上回った市町村は、男では西原町のみ、女では34市町村であった。

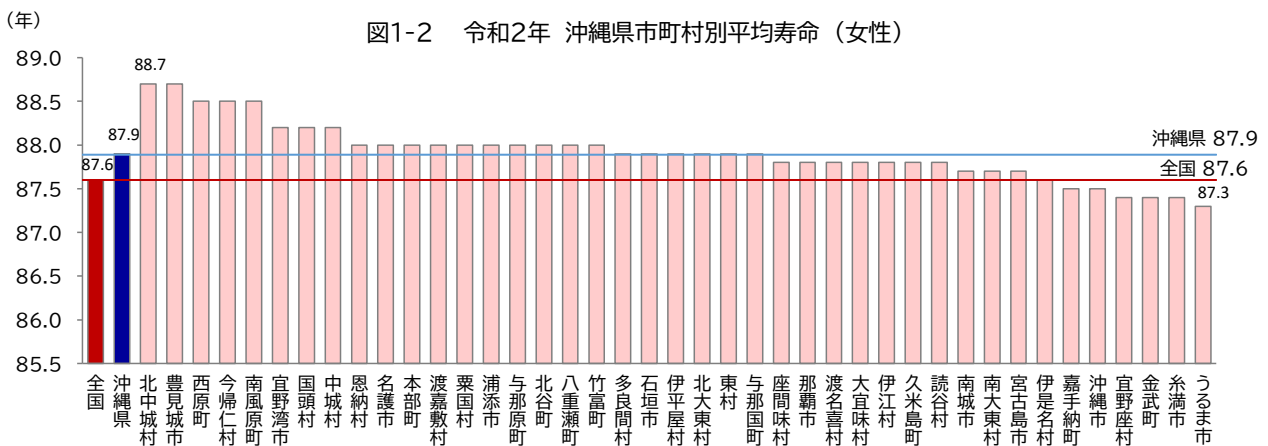
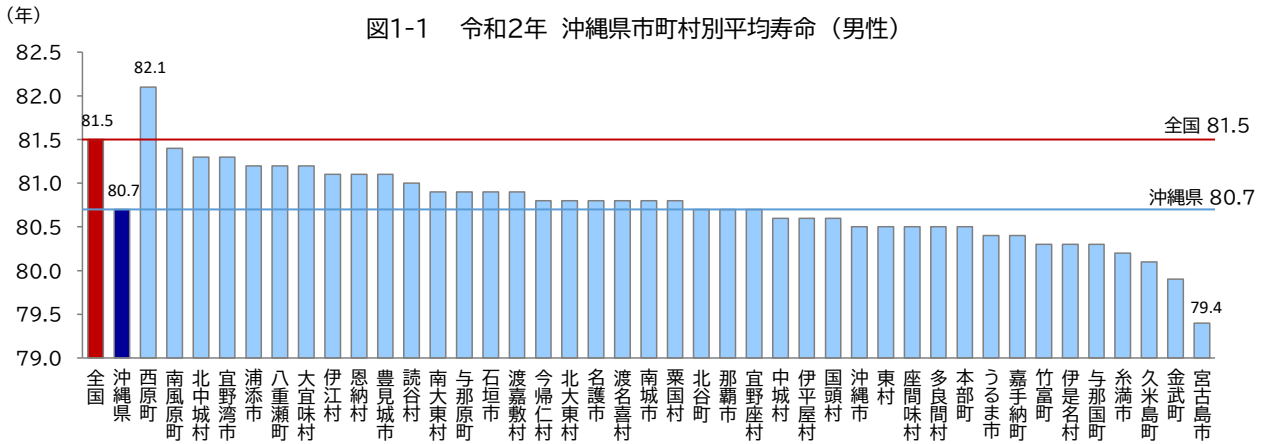


図2-1 令和2年 市区町村別平均寿命の分布 (男・女)

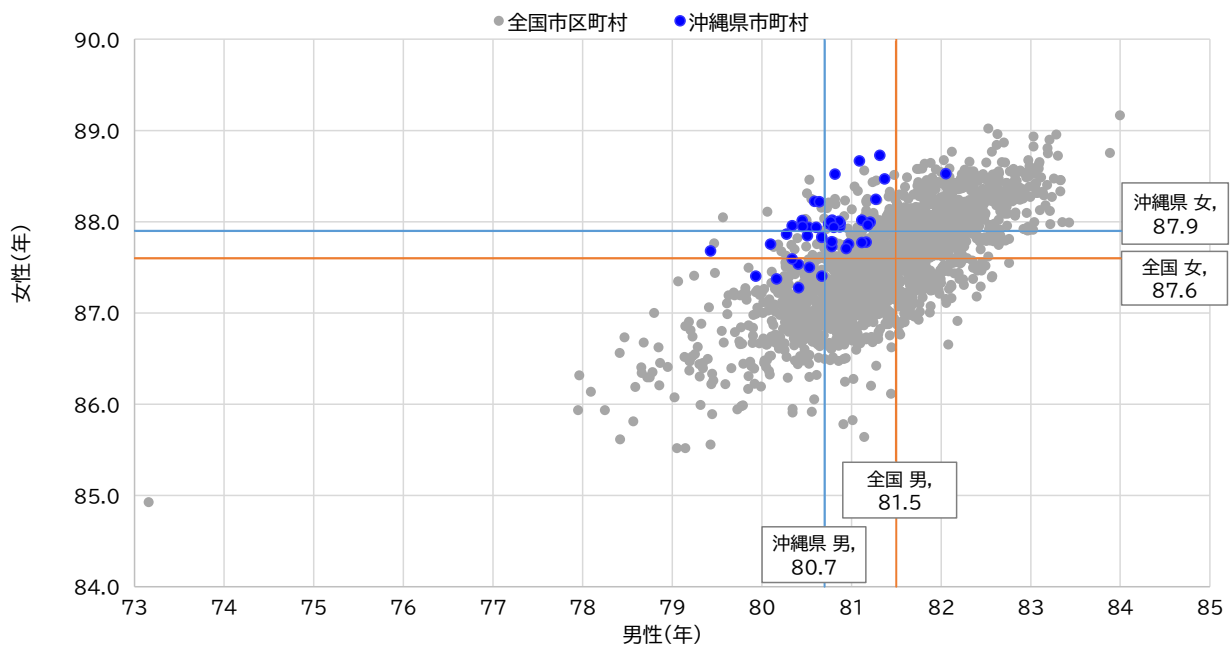


表1 令和2年 沖縄県市町村別平均寿命

男性					女性				
県内順位	市町村名	平均寿命	全国順位		県内順位	市町村名	平均寿命	全国順位	
			上位から	下位から				上位から	下位から
	全国	81.5				全国	87.6		
	沖縄県	80.7				沖縄県	87.9		
1	西原町	82.1	369	1519	1	北中城村	88.7	15	1873
2	南風原町	81.4	936	952	2	豊見城市	88.7	19	1869
3	北中城村	81.3	977	911	3	西原町	88.5	53	1835
4	宜野湾市	81.3	1027	861	4	今帰仁村	88.5	57	1831
5	浦添市	81.2	1093	795	5	南風原町	88.5	76	1812
6	八重瀬町	81.2	1116	772	6	宜野湾市	88.2	220	1668
7	大宜味村	81.2	1132	756	7	国頭村	88.2	241	1647
8	伊江村	81.1	1179	709	8	中城村	88.2	244	1644
9	恩納村	81.1	1181	707	9	恩納村	88.0	409	1479
10	豊見城市	81.1	1205	683	10	名護市	88.0	412	1476
11	読谷村	81.0	1307	581	11	本部町	88.0	416	1472
12	南大東村	80.9	1337	551	12	渡嘉敷村	88.0	423	1465
13	与那原町	80.9	1392	496	13	粟国村	88.0	428	1460
14	石垣市	80.9	1395	493	14	浦添市	88.0	439	1449
15	渡嘉敷村	80.9	1402	486	15	与那原町	88.0	449	1439
16	今帰仁村	80.8	1441	447	16	北谷町	88.0	455	1433
17	北大東村	80.8	1451	437	17	八重瀬町	88.0	463	1425
18	名護市	80.8	1458	430	18	竹富町	88.0	470	1418
19	渡名喜村	80.8	1459	429	19	多良間村	87.9	483	1405
20	南城市	80.8	1460	428	20	石垣市	87.9	487	1401
21	粟国村	80.8	1466	422	21	伊平屋村	87.9	495	1393
22	北谷町	80.7	1487	401	22	北大東村	87.9	496	1392
23	那覇市	80.7	1533	355	23	東村	87.9	498	1390
24	宜野座村	80.7	1534	354	24	与那国町	87.9	576	1312
25	中城村	80.6	1553	335	25	座間味村	87.8	597	1291
26	伊平屋村	80.6	1572	316	26	那覇市	87.8	614	1274
27	国頭村	80.6	1581	307	27	渡名喜村	87.8	666	1222
28	沖縄市	80.5	1608	280	28	大宜味村	87.8	675	1213
29	東村	80.5	1614	274	29	伊江村	87.8	677	1211
30	座間味村	80.5	1621	267	30	久米島町	87.8	708	1180
31	多良間村	80.5	1659	229	31	読谷村	87.8	710	1178
32	本部町	80.5	1661	227	32	南城市	87.7	742	1146
33	うるま市	80.4	1677	211	33	南大東村	87.7	763	1125
34	嘉手納町	80.4	1679	209	34	宮古島市	87.7	798	1090
35	竹富町	80.3	1703	185	35	伊是名村	87.6	888	1000
36	伊是名村	80.3	1705	183	36	嘉手納町	87.5	941	947
37	与那国町	80.3	1724	164	37	沖縄市	87.5	985	903
38	糸満市	80.2	1754	134	38	宜野座村	87.4	1109	779
39	久米島町	80.1	1770	118	39	金武町	87.4	1112	776
40	金武町	79.9	1796	92	40	糸満市	87.4	1147	741
41	宮古島市	79.4	1841	47	41	うるま市	87.3	1257	631

※県内順位は、上位（平均寿命が長い順）から掲載。平均寿命が同値の場合は、小数点第2位以下の数値を比較して順位付けをした。
 全国順位は、全国1887市区町村中、上位（平均寿命が長い順）および下位（平均寿命が短い順）の順位の両方を掲載した。

全国順位 下位50位以内
 全国順位 下位51～100位以内

全国順位 上位50位以内
 全国順位 上位51～100位以内

平均寿命の男女比較

男女の平均寿命の差は、全国で6.1年、沖縄県で7.2年であり、市町村別にみると、男女の差が最も大きいのは、宮古島市(8.3年)、次いで今帰仁村・久米島町(7.7年)となっている。逆に、最も差が小さいのは、西原町(6.5年)、次いで大宜味村(6.6年)となっている。

男女ともに全国の平均寿命(男81.5年、女87.6年)を上回ったのは西原町のみであり、男女ともに全国を下回ったのは7市町村(伊是名村、糸満市、うるま市、沖縄市、嘉手納町、宜野座村、金武町)であった。

図2-2 令和2年 沖縄県市町村別平均寿命の分布(男女)〔図2-1の県内市町村を拡大〕

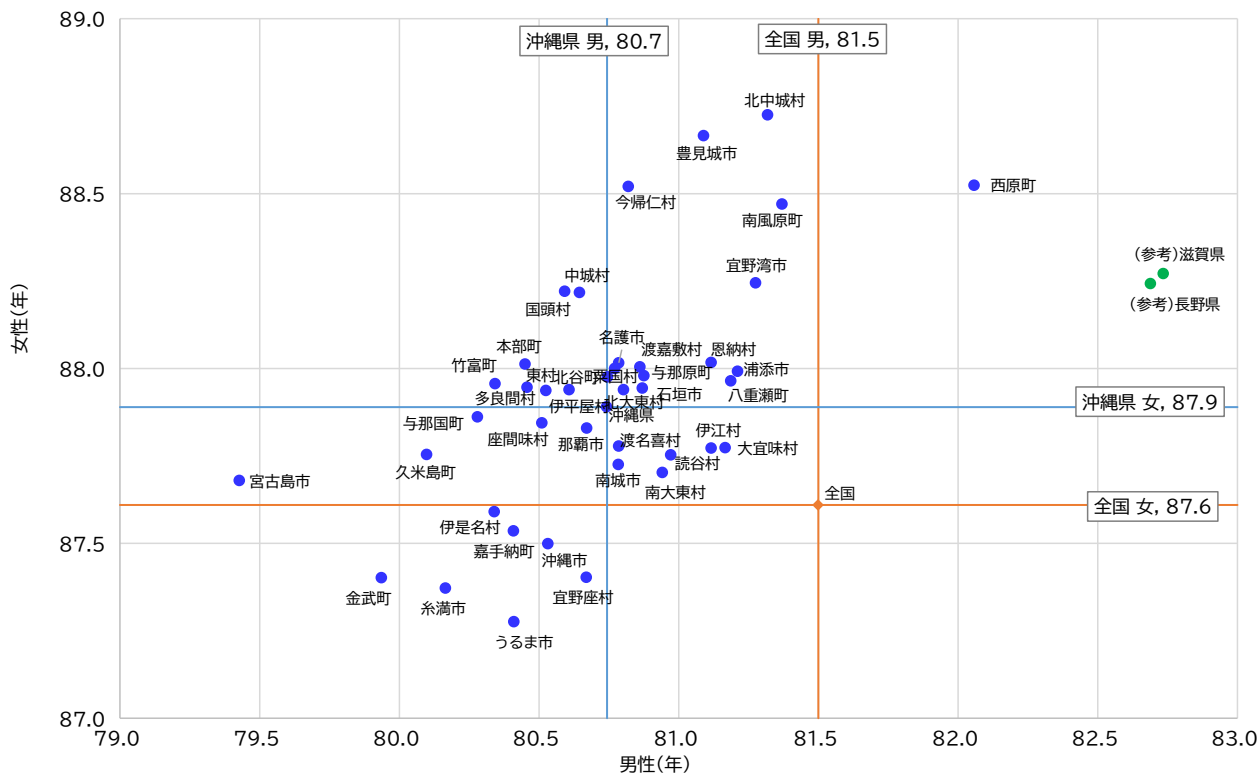


表2 令和2年 沖縄県市町村別平均寿命の男女差

県内順位	市町村名	平均寿命			県内順位	市町村名	平均寿命		
		男女差	男	女			男女差	男	女
1	宮古島市	8.3	79.4	87.7	23	北大東村	7.1	80.8	87.9
2	今帰仁村	7.7	80.8	88.5	24	嘉手納町	7.1	80.4	87.5
3	久米島町	7.7	80.1	87.8	25	与那原町	7.1	80.9	88.0
4	国頭村	7.6	80.6	88.2	26	南風原町	7.1	81.4	88.5
5	竹富町	7.6	80.3	88.0	27	石垣市	7.1	80.9	87.9
6	与那国町	7.6	80.3	87.9	28	渡名喜村	7.0	80.8	87.8
7	豊見城市	7.6	81.1	88.7	29	宜野湾市	7.0	81.3	88.2
8	中城村	7.6	80.6	88.2	30	沖縄市	7.0	80.5	87.5
9	本部町	7.6	80.5	88.0	31	南城市	6.9	80.8	87.7
10	多良間村	7.5	80.5	87.9	32	恩納村	6.9	81.1	88.0
11	金武町	7.5	79.9	87.4	33	うるま市	6.9	80.4	87.3
12	東村	7.4	80.5	87.9	34	浦添市	6.8	81.2	88.0
13	北中城村	7.4	81.3	88.7	35	読谷村	6.8	81.0	87.8
14	座間味村	7.3	80.5	87.8	36	八重瀬町	6.8	81.2	88.0
15	伊平屋村	7.3	80.6	87.9	37	南大東村	6.8	80.9	87.7
16	伊是名村	7.3	80.3	87.6	38	宜野座村	6.7	80.7	87.4
17	名護市	7.2	80.8	88.0	39	伊江村	6.7	81.1	87.8
18	北谷町	7.2	80.7	88.0	40	大宜味村	6.6	81.2	87.8
19	粟国村	7.2	80.8	88.0	41	西原町	6.5	82.1	88.5
20	糸満市	7.2	80.2	87.4		全国	6.1	81.5	87.6
21	那覇市	7.2	80.7	87.8		沖縄県	7.2	80.7	87.9
22	渡嘉敷村	7.1	80.9	88.0					

※ 平均寿命の男女差は、生命表より小数点第2位以下の数値を用いて算出し、順位付けした。

図3-1 市町村別平均寿命マップ（階級区分:全国および沖縄県の平均寿命で3区分）

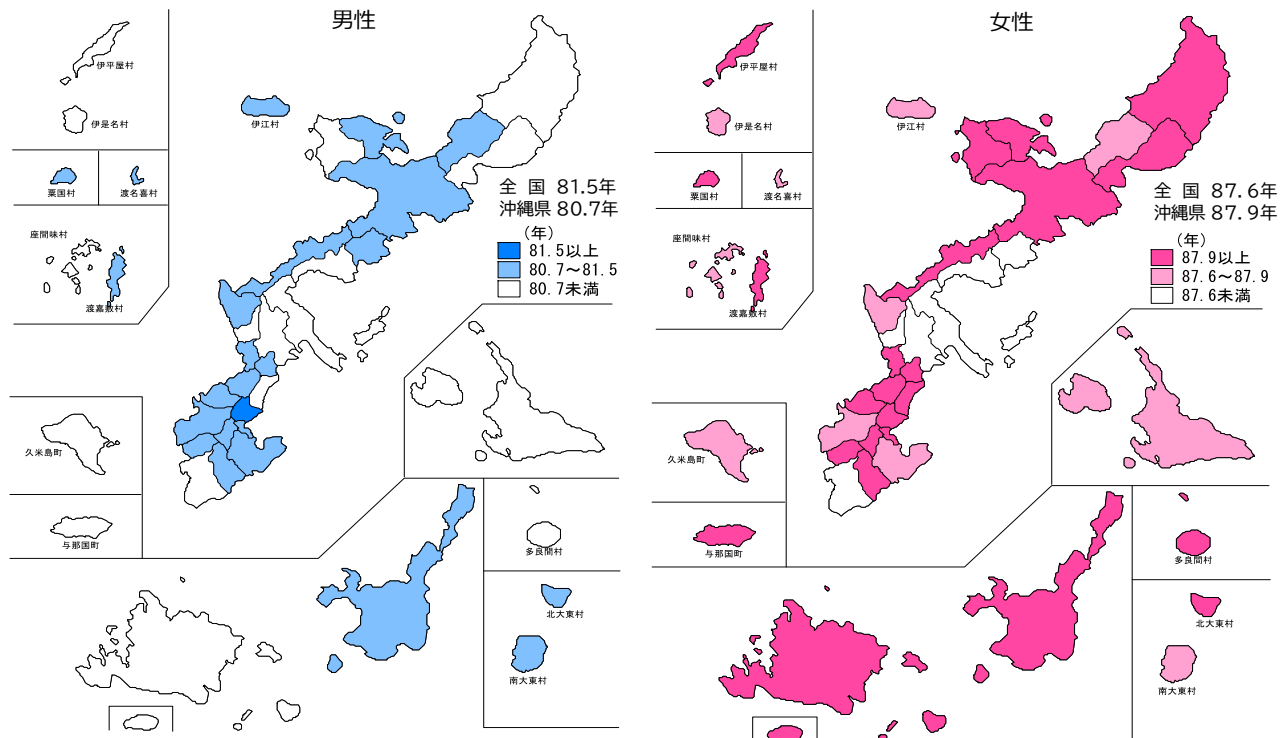
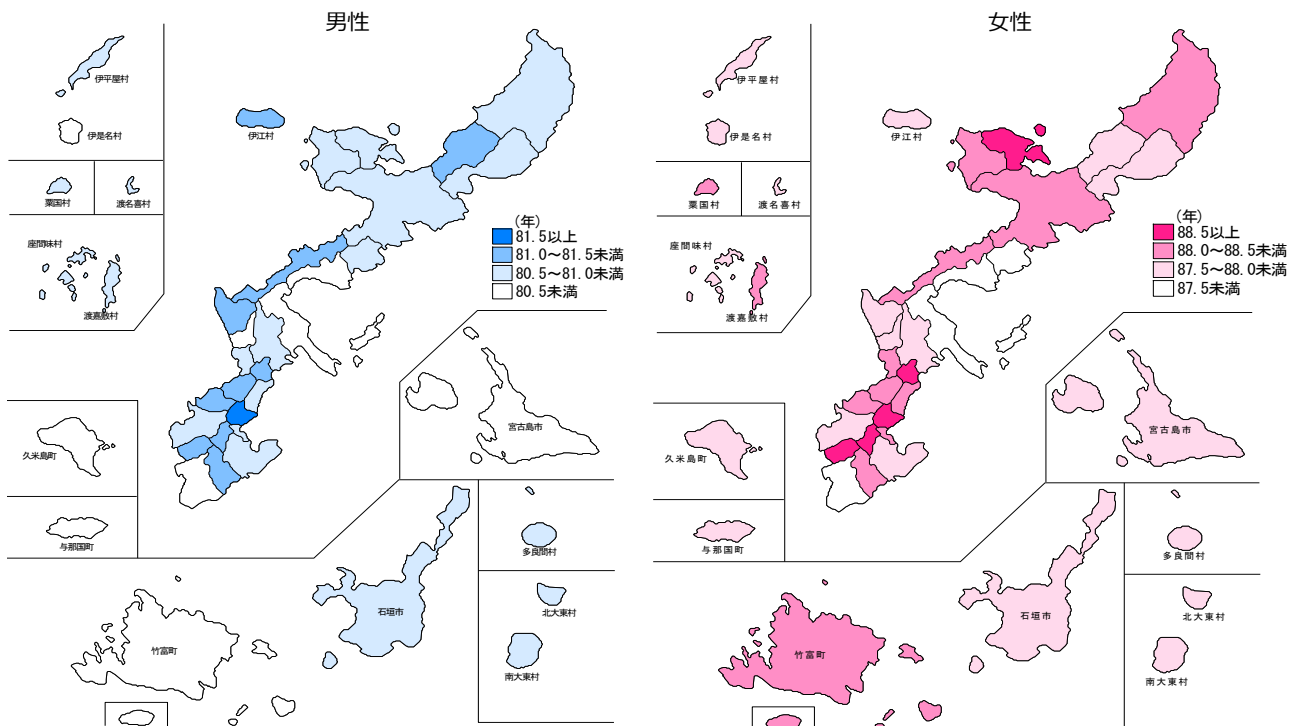


図3-2 市町村別平均寿命マップ（階級区分:0.5年ごとに4区分）

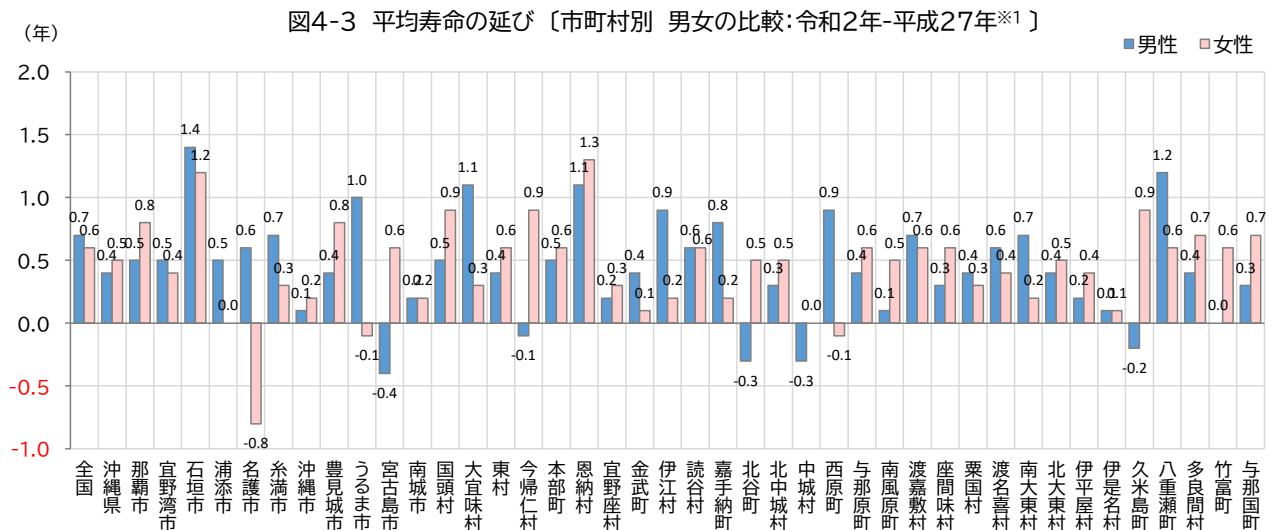
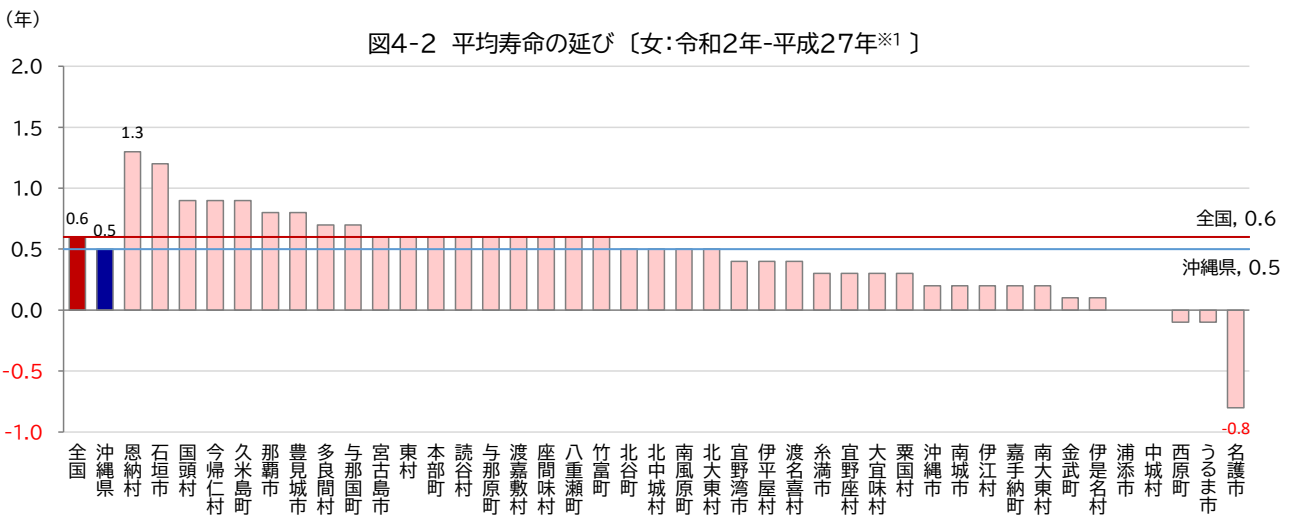
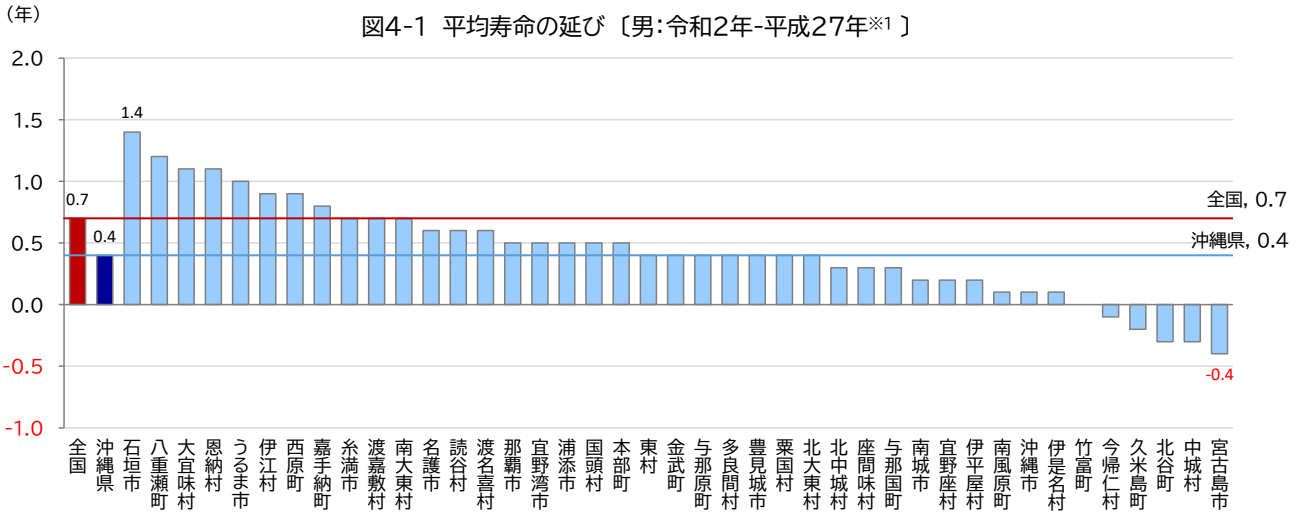


平均寿命の伸び(令和2年-平成27年※1)

平成27年と比較すると、男性で35市町村、女性では36市町村の平均寿命が延伸した。

大きな伸びを示した市町村は、男では、石垣市(1.4年)、八重瀬町(1.2年)、大宜味村・恩納村(1.1年)となっており、女では、恩納村(1.3年)、石垣市(1.2年)、国頭村・今帰仁村・久米島町(0.9年)となっている。

沖縄県の平均寿命の伸びは男0.4年、女0.5年で、男女とも全国(男0.7年、女0.6年)を下回っている。全国の伸びを上回った市町村は、男性が8市町村、女性が9市町村であった。



※1 平均寿命の伸び幅の計算に使用した平成27年の平均寿命は、令和2年と同様の方法で再計算された参考値。そのため平成30年4月に公表された平成27年市区町村別平均寿命の値とは一致しない。

表3 令和2年 沖縄県市町村別平均寿命の伸び幅

男性					女性				
県内 順位	市町村名	平均寿命の伸び R2年-H27年 ^{※1}	平均寿命		県内 順位	市町村名	平均寿命の伸び R2年-H27年 ^{※1}	平均寿命	
			R2年	H27年 ^{※1}				R2年	H27年 ^{※1}
	全国	0.7	81.5	80.8		全国	0.6	87.6	87.0
	沖縄県	0.4	80.7	80.3		沖縄県	0.5	87.9	87.4
1	石垣市	1.4	80.9	79.5	1	恩納村	1.3	88.0	86.7
2	八重瀬町	1.2	81.2	80.0	2	石垣市	1.2	87.9	86.7
3	大宜味村	1.1	81.2	80.1	3	国頭村	0.9	88.2	87.3
4	恩納村	1.1	81.1	80.0	3	今帰仁村	0.9	88.5	87.6
5	うるま市	1.0	80.4	79.4	5	久米島町	0.9	87.8	86.9
6	伊江村	0.9	81.1	80.2	6	那覇市	0.8	87.8	87.0
6	西原町	0.9	82.1	81.2	6	豊見城市	0.8	88.7	87.9
8	嘉手納町	0.8	80.4	79.6	8	多良間村	0.7	87.9	87.2
9	糸満市	0.7	80.2	79.5	8	与那国町	0.7	87.9	87.2
9	渡嘉敷村	0.7	80.9	80.2	10	宮古島市	0.6	87.7	87.1
9	南大東村	0.7	80.9	80.2	10	東村	0.6	87.9	87.3
12	名護市	0.6	80.8	80.2	12	本部町	0.6	88.0	87.4
12	読谷村	0.6	81.0	80.4	12	読谷村	0.6	87.8	87.2
12	渡名喜村	0.6	80.8	80.2	12	与那原町	0.6	88.0	87.4
15	那覇市	0.5	80.7	80.2	12	渡嘉敷村	0.6	88.0	87.4
15	宜野湾市	0.5	81.3	80.8	12	座間味村	0.6	87.8	87.2
15	浦添市	0.5	81.2	80.7	12	八重瀬町	0.6	88.0	87.4
15	国頭村	0.5	80.6	80.1	12	竹富町	0.6	88.0	87.4
15	本部町	0.5	80.5	80.0	19	北谷町	0.5	88.0	87.5
20	東村	0.4	80.5	80.1	19	北中城村	0.5	88.7	88.2
20	金武町	0.4	79.9	79.5	19	南風原町	0.5	88.5	88.0
20	与那原町	0.4	80.9	80.5	19	北大東村	0.5	87.9	87.4
20	多良間村	0.4	80.5	80.1	23	宜野湾市	0.4	88.2	87.8
24	豊見城市	0.4	81.1	80.7	23	伊平屋村	0.4	87.9	87.5
24	粟国村	0.4	80.8	80.4	25	渡名喜村	0.4	87.8	87.4
24	北大東村	0.4	80.8	80.4	26	糸満市	0.3	87.4	87.1
27	北中城村	0.3	81.3	81.0	26	宜野座村	0.3	87.4	87.1
27	座間味村	0.3	80.5	80.2	28	大宜味村	0.3	87.8	87.5
27	与那国町	0.3	80.3	80.0	28	粟国村	0.3	88.0	87.7
30	南城市	0.2	80.8	80.6	30	沖縄市	0.2	87.5	87.3
30	宜野座村	0.2	80.7	80.5	30	南城市	0.2	87.7	87.5
32	伊平屋村	0.2	80.6	80.4	30	伊江村	0.2	87.8	87.6
33	南風原町	0.1	81.4	81.3	30	嘉手納町	0.2	87.5	87.3
34	沖縄市	0.1	80.5	80.4	30	南大東村	0.2	87.7	87.5
34	伊是名村	0.1	80.3	80.2	35	金武町	0.1	87.4	87.3
36	竹富町	0.0	80.3	80.3	36	伊是名村	0.1	87.6	87.5
37	今帰仁村	-0.1	80.8	80.9	37	浦添市	0.0	88.0	88.0
38	久米島町	-0.2	80.1	80.3	37	中城村	0.0	88.2	88.2
39	北谷町	-0.3	80.7	81.0	39	西原町	-0.1	88.5	88.6
40	中城村	-0.3	80.6	80.9	40	うるま市	-0.1	87.3	87.4
41	宮古島市	-0.4	79.4	79.8	41	名護市	-0.8	88.0	88.8

※1 平成27年の平均寿命は、令和2年と同様の方法で再計算された参考値。そのため、平成30年4月に公表された平成27年市町村別平均寿命の値とは一致しない。

※ 平均寿命の伸び幅は、厚生労働省公表資料の小数点第1位の値で計算し、伸び幅が同値の場合は同順位とし、市町村コード順に掲載した。

平均寿命の伸び幅が全国を上回った市町村